

【議会報告会】

○知り合いの医師は、本市出身であるが、名古屋大学の医学部を経て愛知県内の病院で研修、就職している。本市は財政状況も好調であり、就職準備資金貸付制度などにより本市出身者を優遇し、本市の優秀な人材の流出を防ぐなど、積極的に医師の確保に努めるべきである。

⇒議員 医師はもちろんのことだが、広く医療従事者を確保することが重要であると考えている。また、高齢化社会の進展に伴い、介護士の不足も予想されており、人材の確保に加えて、人材の育成という点で、研修制度の充実なども重要になってくる。本市出身者を優遇することについても担当部局に伝え、検討していきたい。

○マイナンバーカードの発行を検討したが、セキュリティ面に不安があり、断念した。マイナンバーカードが普及しない原因をどのように分析するか。

⇒議員 セキュリティ面での安全性や、作成に時間を要することなどから普及が進んでいないと考えている。国の進める制度であるため、市としてできることは限られるが、市民の意見をもとにマイナンバーカードの普及につなげていきたい。確定申告の際にも役に立つ等、今後、マイナンバーカードの利便性の向上が見込まれる。

○マイナンバーが作られた目的は、国民の収入を把握し、効率的に税金を徴収することであり、コンビニ交付などは付随するサービスの一部にすぎない。マイナンバーの説明にあたっては、制度の目的や背景をしっかりと説明するべきである。

⇒議員 コンビニ交付はマイナンバーカードを活用した市のサービスとしてご報告した。マイナンバー制度の運用について不安に思う市民の気持ちは良くわかるため、いただいたご意見を担当部局に伝え、今後の施策に繋げていきたい。

○イノシシによる被害がひどく、他地区から捕獲用の檻を借りて設置しているが、なかなか捕獲できない。檻の増設を検討しているが、自主防除活動事業交付金は檻の購入費に活用できるのか。

⇒議員 自主防除活動事業交付金の内容は、サル、シカ、イノシシによる被害を防ぐ目的で自治会等の団体に対し、捕獲活動に要するガソリン代や消耗品費、周知啓発に係

る会議費等に対して交付するものである。計上されている予算額35万円からすると、支援対象は限られ交付額も非常に少額であると考えるが、自治会等への支援の足掛かりとして、今後、増額できるように議論していきたい。その他にも、現在でも侵入防止柵の整備に関して補助制度があり、また、平成30年度からの新規事業である里山・竹林環境保全支援事業は1団体あたり50万円を限度に山林の整備に係る経費の4分の3を支援するものであり、有害鳥獣対策にも効果的であると考える。

○捕獲用の檻が不足しているため、檻の確保をお願いしたい。

⇒議員 中日本高速道路株式会社から捕獲檻の支給があり、獣害に悩んでいる地区にも配分されたと聞いている。捕獲檻の必要性についても、地域の意見をもとに議論していきたい。

○委員会の議論の中で、サルの頭数は減少しているとの報告があるが、保々地区ではいまだにサルが出没しており、登下校中の子どもに威嚇してくることもある。猟友会にも協力してもらっているが、高齢化が進んでおり、市民への被害が出る前に早急に対応すべき課題である。

⇒議員 檻による捕獲を中心とする猟友会の人員は100人程度であるが、サルやイノシシは賢く、なかなか捕獲できない。警備会社によるドローンを活用した追い払い活動や、自衛隊による鳥獣対策などの新たな手法も検討していきたい。また、捕獲檻の購入費用については臨時的に地域活動費（館長権限予算）を活用することも可能と考えるので、地区市民センターの館長と調整してはどうか。農業への獣害は、農家のやる気に直結するため、小さい被害であってもしっかりと対策していきたい。

⇒議員 本市の南部地域ではサルの大量捕獲囲い罠を使用し、効果を出している。北部地域においても同様の対策を講じることで被害の減少が見込めるものと考える。

○保々地区は、かつては保々工業団地により賑わい、人口が増加したが、近年では企業も衰退し、人口も減少している。高速道路の整備は進んでいるため、交通の利点を生かして企業誘致を進めるべきではないか。

○新保々工業団地を活用した保々地区の活性化について、企業誘致やそれに伴う道路、住宅の整備、市街化調整区域の緩和などを前市長と現市長にお願いしており、議会にもぜひ協力してほしい。

⇒議員 今後の成長が見込めるロボット、医療機械、薬品などの企業を誘致することが重要であると考えている。地元の皆さまの企業誘致を望む声を受けて、実現に向けて努力していきたい。

○委員会でのやり取りの中で、執行部からの答弁は「検討していきたい」などの曖昧な回答が多いが、具体的な期日や実施する内容を明示できるよう、踏み込んだ議論をしてほしい。

⇒議員 市民に分かりやすい議論となるよう、質問の仕方などを工夫していきたい。いただいたご意見は他の議員にも周知する。

【シティ・ミーティング】

○知り合いの付き添いとして市立四日市病院に来院した際に、外来に看護師が配置されておらず、診察の際に介助などを行う職員がいないことを問題と感じた。外来の対応を改善すべきではないか。

⇒議員 一般的には外来に看護師が配置されていないことは考えにくい。現状を確認し、改善に向けて議論していきたい。

○第三次市立四日市病院中期経営計画に記載されている内容は、市立四日市病院に限らず一般的に病院が持つ課題ばかりであり、また、単年度ごとの具体的な目標設定もされていないため、計画としては不出来なものであると考える。議会は厳正に審査を行い、市民にもわかりやすく、しっかりとした計画の策定に努めさせるべきである。

⇒議員 職員の採用人数の目標等は年度ごとの目標を第三次市立四日市病院中期経営計画で定めている。

○黒字計上しているということだが、その収益を人材確保に投資すべきである。本市出身の医師が他市の病院に就職している状況を踏まえると、中学校や高等学校に就職準備資金貸付制度などを周知し、早い段階から市立四日市病院への就職を意識してもらえるようにすべきである。

⇒議員 市立四日市病院は黒字計上を続けており、全国的に見ても高く評価できるものである。今後も黒字計上を続けるためには、マンパワーが重要であり、医療従事者の確保のために就職準備資金貸付制度や労働環境の整備を進めている。

⇒議員 市立四日市病院は研修生が集まりにくいという話を伺っており、黒字計上していることに満足せず、人材確保のために投資を行い、医療関係者にとって魅力的な病院と思われるようにすることが重要であると考えている。

○2年前の医療事故をきっかけに、市立四日市病院の安全管理の透明性を確保する動きがあったと記憶しているが、その後、市立四日市病院から産業生活常任委員会に対して医療事故等について報告はあったのか。また、どのような内容であったか。

⇒議員 昨年8月定例月議会の決算審査の中で、当委員会から資料請求をして、医療事故・インシデントの状況について報告を受けている。

○医療事故調査・支援センターに報告する案件はあったか。

⇒議員 医療事故調査・支援センターへの報告案件については報告を受けていない。

○医療事故の調査に関する組織が市立四日市病院内に設置されているのか。

⇒議員 病院内の細かい組織体まで把握していない。

○外国客船の寄港などにより、海外から病原菌が運ばれてくる可能性も考えられるが、市立四日市病院には感染病床が2つしかなく、不十分であると考えている。県や市はどのような対策を考えているのか。

⇒議員 海外からの病原菌による感染被害については危機感を持っており、病床の不足に加え、感染者を運ぶボックスの数も限られている。有事の際は名古屋港の支援を受けて対応することとなっている。

○病院の収支について、以前は赤字であったが、黒字になった理由をどのように分析しているのか。

⇒議員 決算審査の中で、2年連続で黒字となったことが報告されている。主な要因として診療報酬の改定により収入が増加したことが挙げられるが、一方で薬品費や医療器具、人件費などの支出も増加しており、経営努力によって黒字を計上している状況である。

⇒議員 市立四日市病院は急性期病院として、入院時に退院までのスケジュールを示し、効率的な運営に努めている。一方で、早期に退院時期を示されることで不安に思う

患者やご家族がいることも考慮し、患者に寄り添った対応が必要であると考えている。

○一般会計から市立四日市病院事業会計に9億円の繰出しが行われており、黒字計上とは言えないのではないかと。

○病院の経営状況について詳細にわかるように報告してほしい。

⇒議員 一般的に、公立病院では国の定める基準に沿って一般会計からの繰入を受けており、その中で単年度収支が黒字となっていることは評価に値することである。当委員会では、今後も高度な医療を提供するために人材確保に努めるべきであるという意見で一致している。

○保々幼稚園と保々保育園を統合する計画について、現在使用しているお遊戯室が手狭で、入・卒園式で保護者が入りきらない。子ども未来部にも要望を伝えているが、まだ設計段階であるため、明確な回答が返ってこないが、良い園となるよう、議会にも協力してほしい。

⇒議員 議員の中でも関心の高いことであり、市民の意見を聞き、しっかりと議論して良い園にしていきたい。